

S 小学校（特別支援学級）

【学校の概要】

S 小学校は開校して7年目の学校であり、当初より教育委員会が重点的に ICT 機器の整備を進めてきた学校である。平成 22 年度から 23 年度は授業改善をテーマに自主公開を行い、平成 25 年度には全日本教育工学研究協議会全国大会における授業公開を行っている。

【特徴的な点に関するまとめ】

今回の事例では、異学年、異なる障害種の児童であっても、適切な題材を選び目標設定を工夫することにより一緒に授業ができるという、一つの提案であったと考える。もちろん、能力については十分検討する必要があるが、パソコンはそのようなことを可能にする機器であることを改めて確認できた。同時に、絵を言語化して相手に伝えるという、かなりハイレベルな活動が、自分で絵を作成することで「伝えたい」という意欲の高まりにつながり、自分なりの表現を生み出す様子が見受けられた。機器を使うことやソフトウェアを操作することについて、興味関心を持つだけでなく、事例のように教科の目標に迫る活動が展開されていることは特筆できる内容である。また、5W 1H のシート（後述）はアナログな教材であり、今後 PC とこのアナログ教材の組合せで、文章を書くという活動の展開も興味深い。

S 小学校では5学級ある特別支援学級全体で、日常的に PC を中心とした ICT 機器を活用しており、どの児童生徒も、それぞれの実態に応じて操作に慣れ親しんでいる。ただし、このような取り組みは学校全体に ICT 機器が整備されているという現状があつてのことであり、ICT 活用においてインフラの整備は必須であると感じた。

【特徴的な事例】

（1）児童生徒が参加する授業

①教科名等 国語 「お話しを作ろう」

②授業の目標等

パソコンを使用して、素材を選び自分でお話を組み立てる。観点別学習状況の評価の観点は、「思考・判断・表現」である。

（2）児童生徒の実態

①学年 5年生、4年生（対象児は2名）

②指導の場 特別支援学級での合同授業

③児童生徒の障害および課題（特性・ニーズ）

対象となる児童生徒の障害は、「肢体不自由」（5年生）と「自閉症」（4年生）である。どちらの児童も話し言葉での表現はできるものの、文章で表現することには難しさがある。日記レベルの短い文章を書くことには取り組んでいるものの、ストーリーのある長い文章表現は難しい。

(3) ICT 活用について

①使用した支援機器・教材の名称

ノート型コンピュータ

ソフトウェア「フラッシュ教材試作集～あそんでつくるプリント教材～」

②活用のねらい

お話を構成する4枚の絵を、フラッシュ素材を用いて起承転結を意識しながら構成させる。

③授業における支援内容

児童2名は、教師の授業の流れの提示(図4-3-10、11)やモデル提示を見て学習活動の内容を理解し、それぞれにお話し作成に取り組んだ。操作はどちらの児童も問題なく行えた。ソフトウェアは、選んだ場面(森の中、道路、海中など)に応じた部品(昆虫、自動車、魚など)の中から、自分が選んだものをドラッグアンドドロップで場面に貼り付けるという操作を行うもので、これについても操作は問題なく行えていた。課題となったのは、興味をひく部品が多数ある中で、何を選ぶかを決めることであったが、それぞれの教師のアドバイスで多少多くても適切に選ぶことができていた。選んでいる最中は話の流れを考えることより、部品を操作することに夢中であったが、まとめとして教師から「どんなお話?」と聞かれて、絵を見ながら話を考える様子が見受けられた。

最後に作成した4枚の絵を発表し、起承転結の流れに沿って自分の考えた話(あらすじ)を発表した。次時以降にそれぞれの絵を説明する文章を書く活動に入るが、担任によると普段から使っている5W 1Hの構成シート(作文等で活用)を使い、文章を構成していく予定であるとのことであった。

④ ICT 活用による児童生徒の変容や評価

2名の児童は知的障害を併せ有するが、視覚的な資料があるため考えながらも自分なりの話を発表することができた。また、どちらの児童も、絵を完成させあらすじを発表できたことに満足した様子であった。

(梅田真理、金森克浩)

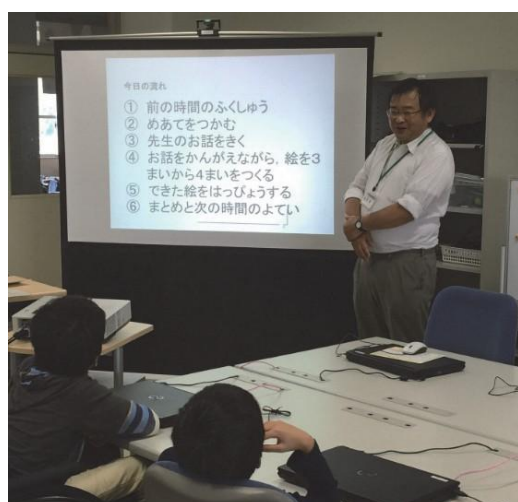


図 4-3-10 授業の流れを提示して説明



図 4-3-11 操作画面の説明

※ 本事例（特別支援教育教材ポータルサイト掲載事例）は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「C-94 障害のある児童生徒のための ICT 活用に関する総合的な研究－学習上の支援機器等教材の活用事例の収集と整理－」（平成28年3月）、112-113 に記載された内容である。